



学びの速報

第129号

発行日: 令和7年7月24日(木)

発行: 山口県立下関西高等学校

SSH
Super Science High School

～普通科の総合的な探究の時間の活動や探究科・文理探究科の活動、SSH事業の取組など、下関西高の特色ある学びをお知らせします～

探究科の2年次生を対象とした、「発展探究中間報告会ガイダンス」を実施しました。

探究科

探究科の2年次生を対象とした7月10日(木)の発展探究の授業において、発展探究中間報告会に向けたガイダンスを実施しました。発展探究中間報告会は、探究科の2年次生が4月から18班に分かれて取り組んできた課題研究の成果を、大学の先生方や博物館の学芸員のみなさまに発表するとともに、保護者のみなさまや文理探究科の1年次生、山口県内の高等学校の先生方などに披露します。



中間報告会の目的について考える探究科の2年次生

このたび開催したガイダンスでは、中間報告会の目的が紹介されるとともに、1班当たりの発表時間や発表で使用する物品、配布する資料を作製する際の留意点、発表会での役割分担などが説明されました。さらに、よりよい発表をするために必要なこととして、スライドの文字の大きさや配色、スライドに提示する情報の配置、グラフの示し方などについて説明がありました。発表会では、聞き手の注目を引き付けながら、研究成果を発表することが大切です。そうして、聴衆のみなさんが、発表の内容について考えながら聞くことができるようになれば、みなさんの研究成果が伝わる発表となります。説明するときの話す速さや指示棒の使い方など、2年次生のみなさんは、昨年度体験した様々な発表会で試行錯誤しながら工夫してきました。1班当たりの発表時間は、5分間と短いですが、報告会に参加したみなさんにこれまでの研究成果が伝わることを期待します。

本校生徒が、化学グランプリ2025に参加しました。

普通科

探究科

7月21日(月)に開催された化学グランプリ2025の一次選考に、普通科の2年次生が2人、探究科の2年次生が1人、3年次生が1人、文理探究科の1年次生が3人、参加しました。



福岡教育大学で行われた一次選考に参加した生徒

化学グランプリは、国際科学オリンピックの国内予選の一つとして実施されるものです。コロナ禍以来、国内予選の多くがオンラインで開催されようになりましたが、化学グランプリは、大学等を会場として実施される形態に戻りました。本校生徒が受験した会場は、福岡県宗像市にある福岡教育大学で、受験した7人の生徒は、午後1時30分から午後4時まで行われた150分間の試験に挑戦しました。高等学校の教科書には参考程度で記述されている電子軌道について問うやや難しい問題もありましたが、無機化学、有機化学、物理化学の各分野から出題された問題に、参加した生徒は一生懸命取り組むことができました。このたびの一次選考を受験した生徒から選ばれた80人が、8月21日(木)から23日(土)にかけて、東京都八王子市の工学院大学で行われる二次選考に進むことができます。参加した生徒が、二次選考に進むことを期待します。

普通科

は普通科を、

探究科

は探究科・文理探究科を対象としたプログラムです。

課題研究に取り組む探究科の2年次生が、電子メールで質問しました。

探究科

発展探究の授業において、課題研究に取り組む探究科2年次の英語1班と2班が、研究を深めるため電子メールで質問しました。いずれの研究班も、訪日観光客のみなさんに日本文化を体験し、楽しんでいただくことを目的として研究しています。

英語1班は、神社を訪問する訪日観光客を増やす方法について研究しています。そこで、身近な神社である唐戸地区の赤間神宮の職員の方に、海外から訪れる観光客の人数やその方々のために行っている対応について電子メールで尋ねました。赤間神宮は、「全国でも唯一といわれている龍宮造りによる社殿をもつ神社で、これは御祭神（ごさいじん）である安徳天皇が源平合戦で海に御隠れになった後、水の御神徳（ごしんとく）を得られて御祭神となった」という故事にちなんで造られたものです。職員の方によると、「訪日観光客のみなさんは、赤間神宮の特徴である水天門をはじめ、特徴をもった社殿を御覧になり、日本の文化を体験されているのではないかと考えられているようです。また、訪日観光客のみの人数を数えておられないようですが、多いときには数百人単位で訪れられることもあるようです。赤間神宮では、こうした方々に向け、外国語表記による案内板を掲示されるなど、工夫されていることを教えていただきました。



海外から訪日された方々の神社の訪問について研究する英語1班



訪日されたみなさんに温泉や銭湯を利用してもらう方法を研究する英語2班

英語2班は、訪日観光客のみなさんに、温泉や銭湯を楽しんでもらう方法を研究しています。日本では、湯船にタオルをつけないことや、タトゥーがあると入浴を断られることなど、独特な習慣があります。こうした習慣がある中、訪日観光客みなさんが、どのように温泉や銭湯を利用されているのか、また、温泉施設ではこうした観光客のみなさんのためにどのような工夫

をされているのか調査するため、群馬県にある草津温泉観光協会の職員の方に電子メールで質問しました。草津温泉には年間で400万人の方々が訪れます。正確に調査されてはおられないようですが、7～8%程度が訪日観光客ではないかと考えられています。訪日観光客のみなさんは、「温泉を目的とされている方もおられますが、街並みや風景を写真におさめたいというお客様も多く、和の文化体験として来訪されていると捉えております」と述べられました。また、英語や中国語のパンフレットも用意されており、簡単な会話は英語で、難しい場合には翻訳機の使用などに取り組まれています。なお、訪日観光客のみなさんからの問い合わせとしてはタトゥーに関わるものが多いようです。そして、入浴マナーなどは、それぞれの入浴施設にポスターを掲示し、周知に努められているようでした。普段の生活の中では、温泉の利用は優先順位が低いため、コロナ禍では大きな影響がありましたが、「温泉は、日本文化や日本らしさを伝えることのできるものの一つなので、これからも周知を頑張りたい」と述べられました。さらに、英語2班は、海外のみなさんの意見を聞きたいと考え、本校のALTであるライアン先生の協力をいただいて、海外などに在住されている方々を対象としたアンケート調査を実施しました。その結果、温泉について知ったきっかけのほとんどが口コミであることや、他人と一緒に裸で入浴することに戸惑いを感じていること、タトゥーがある人は入浴できないことに困っていることがわかりました。

それぞれの研究班とも訪日観光客のみなさんが日本の文化を楽しむことを考え、研究を進めています。このたびは、様々な方々に貴重な時間を割いていただいて、質問にお答えいただきました。これらを生かして研究をより一層深めることができるよう、頑張ってください。

普通科

は普通科を、

探究科

は探究科・文理探究科を対象としたプログラムです。